



ダイナミック・マルチアセット戦略 - 足元の投資環境と運用状況 -

情報提供用資料
2021年11月

PIMCOダイナミック・マルチアセット戦略ファンド(資産成長型)/(年2回決算型)

愛称 **世界のマイスター(資産成長型)/(年2回決算型)**

追加型投信/内外/資産複合

 岡三アセットマネジメント

平素より「PIMCOダイナミック・マルチアセット戦略ファンド(資産成長型)/(年2回決算型)」(以下、当ファンド)をご愛顧賜り厚く御礼申し上げます。

当ファンドは、2021年10月30日で設定から1周年を迎え、純資産残高は200億円を突破いたしました。当ファンドの主要投資対象である「ピムコ・バミューダ・ダイナミック・マルチアセット・ストラテジー・ファンド・クラスJ(JPY)」の運用会社ピムコジャパンリミテッドからの情報を基に「足元の投資環境と運用状況」についてお伝えいたします。

運用実績の振り返り

3月以降は巡航速度のリターンに回帰するも足元で変動性が高まる

2021年9月まで：値動きを伴いつつ巡航速度を維持

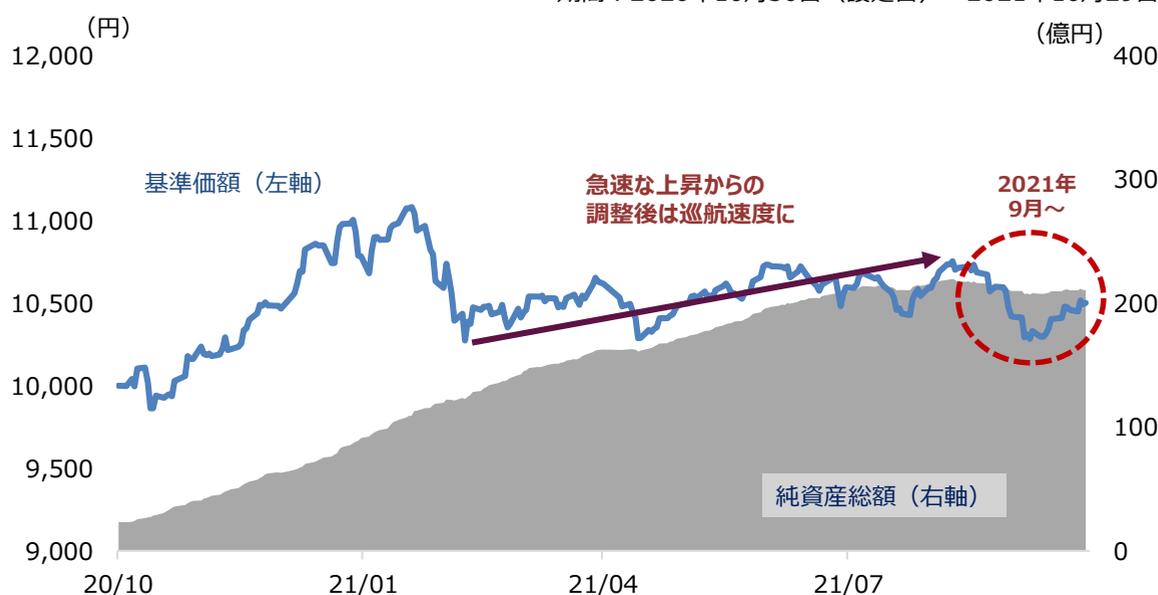
- 当ファンドは20年10月の設定直後、バイデン新政権による大規模な経済対策の成立や新型コロナワクチンの開発を受けたリスクオンの波に乗り大きく上昇しました。
- その後は21年2月中旬以降の金利上昇を受け、グロース株中心に下落した影響から当ファンドも3月上旬にかけて調整。以降、金利上昇の一服などを背景にパフォーマンスは巡航速度のペースに復帰しました。

2021年9月～：中国株の下落が一時的な向かい風に

- 9月以降は中国の不動産業界を発端とするリスクオフの動きから当ファンドのパフォーマンスに向かい風が強まり、10月には4%超の下落がみられたものの、早期に中国株のポジションを調整していたこと、景気回復の勢いの強い欧州株の積み増しを行ったことなどから足元では反発基調に戻りつつあります。

【世界のマイスターの基準価額と純資産総額の推移】

期間：2020年10月30日（設定日）～2021年10月29日



※当ファンドの基準価額は「PIMCOダイナミック・マルチアセット戦略ファンド(資産成長型)」のもので、

また、純資産総額は「PIMCOダイナミック・マルチアセット戦略ファンド(年2回決算型)」との合算額です。

※基準価額は1万口当たり、作成基準日現在、年率1.848%（税抜1.68%）の信託報酬控除後です。

※年2回決算型は、2021年3月10日の決算で分配金190円、同年9月10日の決算で分配金250円（ともに1万口当たり、税引前）をお支払いしています。

※運用状況等によっては分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

※グラフは過去のものであり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。また、税金、手数料等の費用を考慮しておりませんので、お客様が得られる実際の投資成果とは異なります。

（出所）PIMCO、社内のデータを基に岡三アセットマネジメント作成

市場環境等についての評価、分析等は、将来の運用成果を保証するものではありません。

巻末の「本資料に関してご留意いただきたい事項」を必ずお読みください。

設定来では安定的なパフォーマンスとなる一方、足元ではリスクオフの影響を受けるかたちに

設定来で+5.6%のリターン：「グリーン&デジタル」のテーマを中心に新しい景気サイクルを捉える

➤ 当ファンドでは、「ショックがインベーションを加速する」との見方から、コロナ・ショックからの新しい景気回復サイクルは、ESG関連に代表される「グリーン&デジタル」がそのけん引役となると判断し、同テーマを中心とした株式投資テーマを成長を捉える主軸とし、恩恵を一定程度受けることが可能となりました。

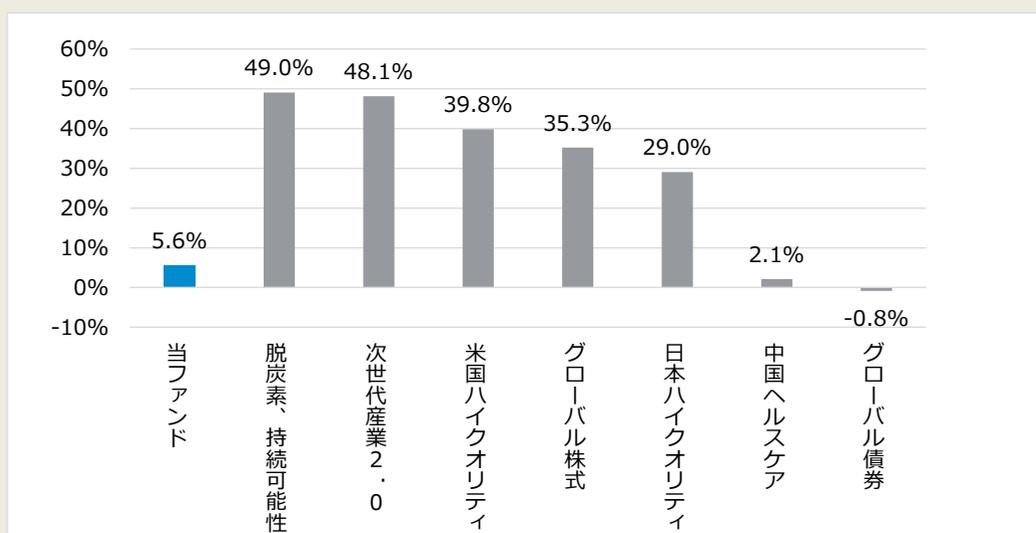
今年9月の高値からは-1.8%の調整：インフレ圧力、中国発のリスクオフの影響から10月上旬は調整

➤ 今夏以降、アジアにおけるデルタ株の感染拡大により供給制約が深刻化、インフレ懸念の高まりや中国不動産企業のデフォルト懸念に端を発したリスクオフなどを背景に、景気敏感株を含む「次世代産業2.0」「米国ハイ・クオリティ」や昨年来の大幅な上昇から「脱炭素・持続可能性」などが大きく揺り戻し、当ファンドの下押し圧力となりました。足元ではかかる株式テーマも反発が見られ、当ファンドの持ち直しに寄与しています。

【当ファンドと株式テーマバスケットの期間別パフォーマンス】

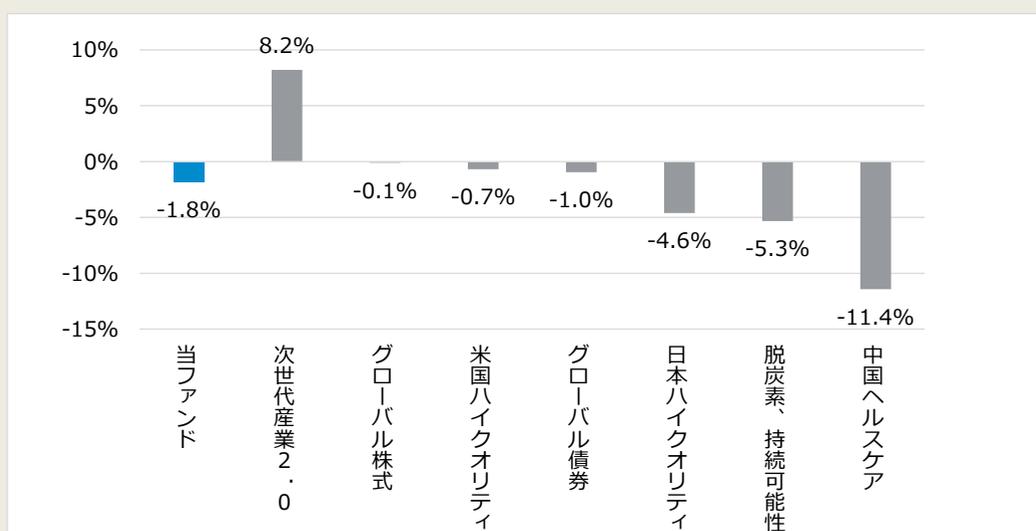
(設定来)

期間：2020年10月30日（設定日）～2021年10月29日



(2021年9月7日以降)

期間：2021年9月7日～2021年10月29日



<使用データ>

米国ハイクオリティ：PIMCOが2018年2月より運用する株式バスケット
 日本ハイクオリティ：PIMCOが2018年7月より運用する株式バスケット
 次世代産業2.0：PIMCOが2020年4月より運用する株式バスケット
 中国ヘルスケア：PIMCOが2019年2月より運用する株式バスケット
 脱炭素社会、持続可能性：PIMCOが2020年10月より運用する株式バスケット
 グローバル株式：MSCI ACWI
 グローバル債券：ブルームバーグ・グローバル債券総合インデックス

※当ファンドは「PIMCOダイナミック・マルチアセット戦略ファンド(資産成長型)」の基準価額の騰落率です。

(出所) PIMCO、Bloombergのデータを基に
 岡三アセットマネジメント作成

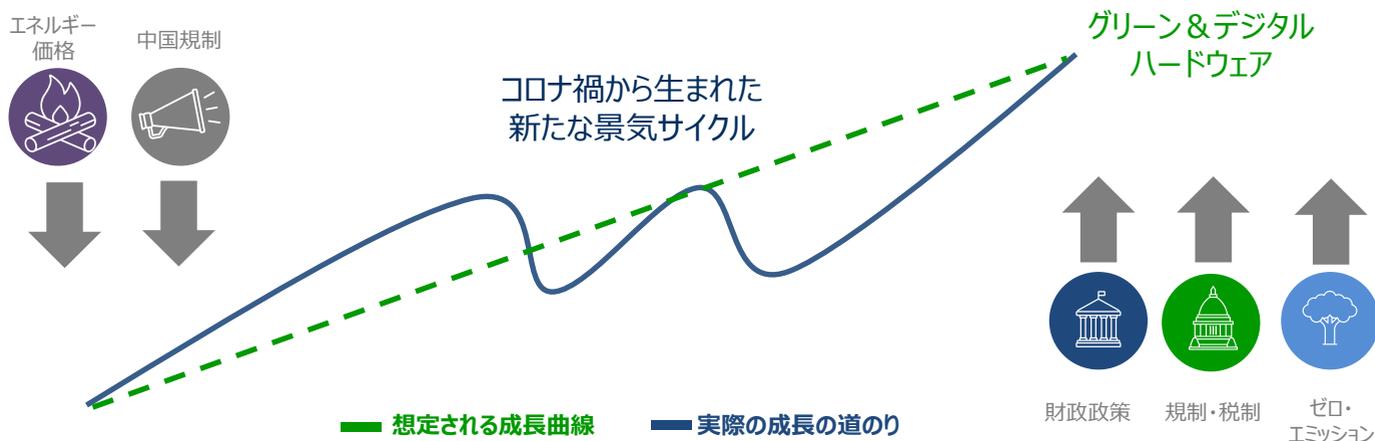
市場環境等についての評価、分析等は、将来の運用成果を保証するものではありません。

巻末の「本資料に関してご留意いただきたい事項」を必ずお読みください。

今後の展望

ESGが軸の景気サイクルとの見方は変わらぬも、道のりは一直線とはいかず

▶PIMCOでは、今回の景気サイクルは「グリーン&デジタル（ESG）」が主軸を担うとの見方に変更はないものの、大規模な政策サポートにより資産価格が高止まりし、長引くインフレ、感染再拡大や、政策のミスなどに対する脆弱性を抱える現状では、その道のりは一直線ではなく、浮き沈みの激しいものになると想定しています。



※上記はイメージです。

(出所) PIMCOのデータを基に岡三アセットマネジメント作成

攻めの株式テーマ・ローテーション

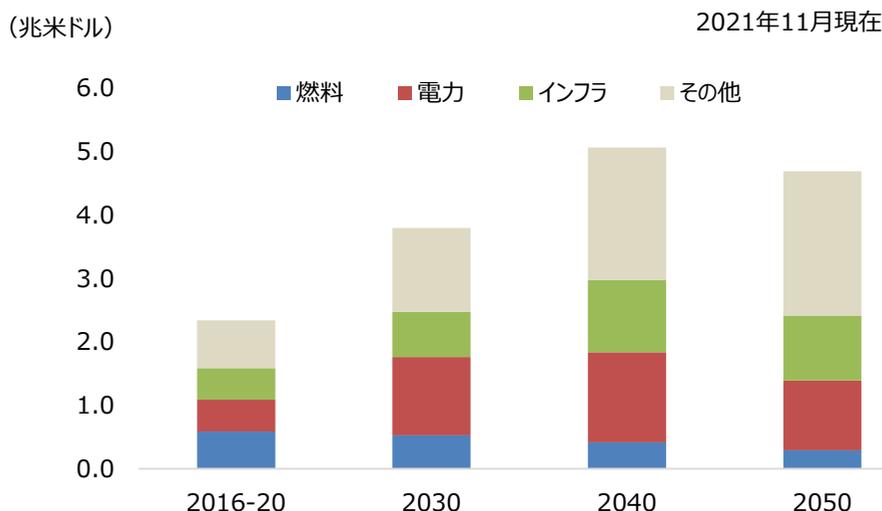
-「ESGバリューチェーン投資」に着目-

莫大な投資と需要が見込まれる脱炭素分野は幅広い投資機会に

脱炭素バリューチェーンの裾野は急速に拡大

- ▶中国が2030年までに炭素排出のピークアウトを目指すなど脱炭素に向けた取り組みは世界110か国以上、世界全体のGDPの75%程度にのぼり、一過性に留まらないトレンドとなることが期待されます。
- ▶IEA（国際エネルギー機関）が公表した脱炭素に向けた投資額は急速な拡大が予想され、電力・インフラ需要は2030年までで2倍程度に加速する見込みです。

【脱炭素に向けた投資金額（IEAによる試算）】



(出所) PIMCOのデータを基に岡三アセットマネジメント作成

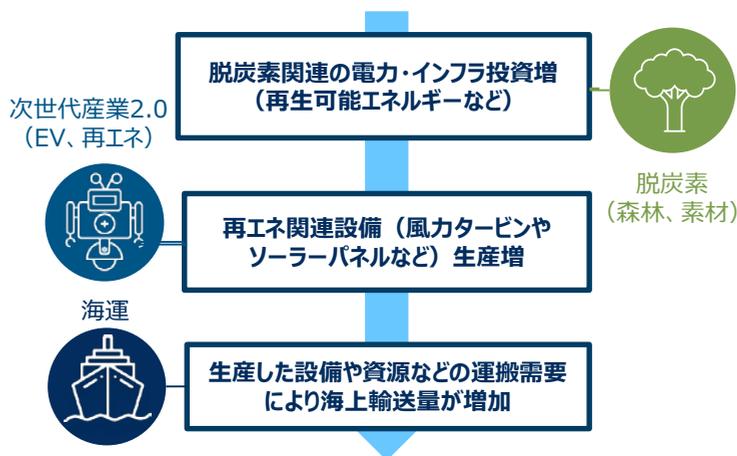
市場環境等についての評価、分析等は、将来の運用成果を保証するものではありません。

巻末の「本資料に関してご留意いただきたい事項」を必ずお読みください。

バリューチェーン全体から恩恵を享受することが可能な投資テーマを発掘

- 当戦略では、森林などのCO2削減技術に関する脱炭素テーマそのものに加え、同バリューチェーンの各所において恩恵を享受できると考えられる株式テーマに連続性のある投資を行っています。
- 再生エネルギーや電気自動車関連の投資を行う「次世代産業2.0」、かかる製品の生産に不可欠な資源や完成した設備を運搬するための「海運」など、ESGの大きなトレンドを投資機会ととらえ、魅力的な銘柄群への投資を行っています。

【脱炭素から期待されるバリューチェーン】



(出所) PIMCOのデータを基に岡三アセットマネジメント作成

守りのアセットアロケーション

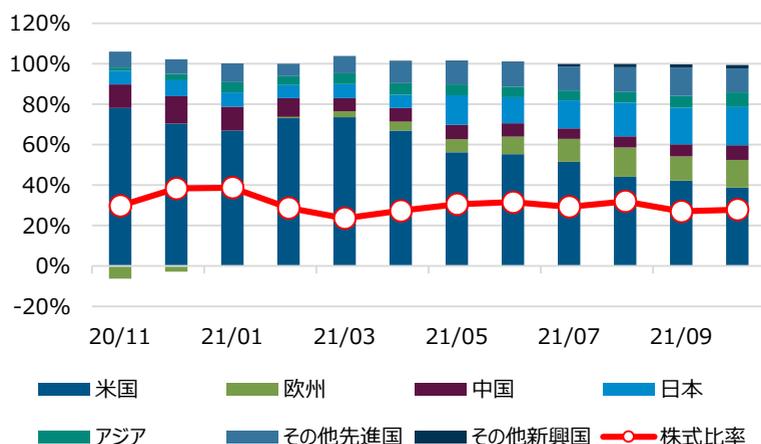
-クッションとしての債券を活用しつつ金利リスクは抑制-

機動的なアロケーションによりポートフォリオの金利上昇にも耐性のある債券運用

- 資産配分では、政府による規制強化などにより投資妙味が低下した中国への投資比率を早期に削減、中国不動産セクター発のリスクオフによる影響の軽減に寄与しました。米国については、金利上昇リスクが高まる環境において債券を中心に投資比率を削減、相対的に割安感のある日本や欧州の組入比率を積み増しました。
- リスクオフ時のクッションとなる債券部分については、インフレの長期化懸念が台頭していることから金利上昇への備えとして、金利リスクを過去最低水準まで引き下げるなど、機動的にリスクを調整しています。

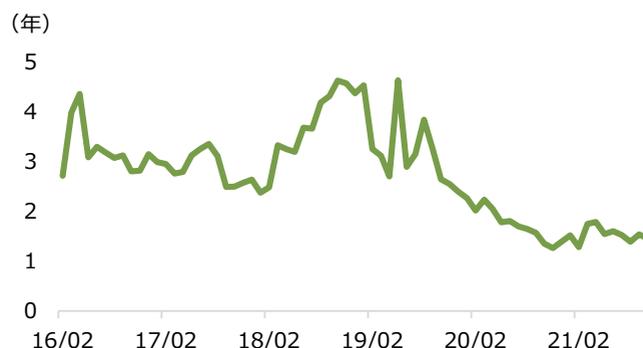
【当戦略の国別配分および株式組入比率】

期間：2020年11月～2021年10月



【当戦略(欧州籍)の金利リスク推移】

期間：2016年2月～2021年10月



(出所) PIMCOのデータを基に岡三アセットマネジメント作成

市場環境等についての評価、分析等は、将来の運用成果を保証するものではありません。

巻末の「本資料に関してご留意いただきたい事項」を必ずお読みください。

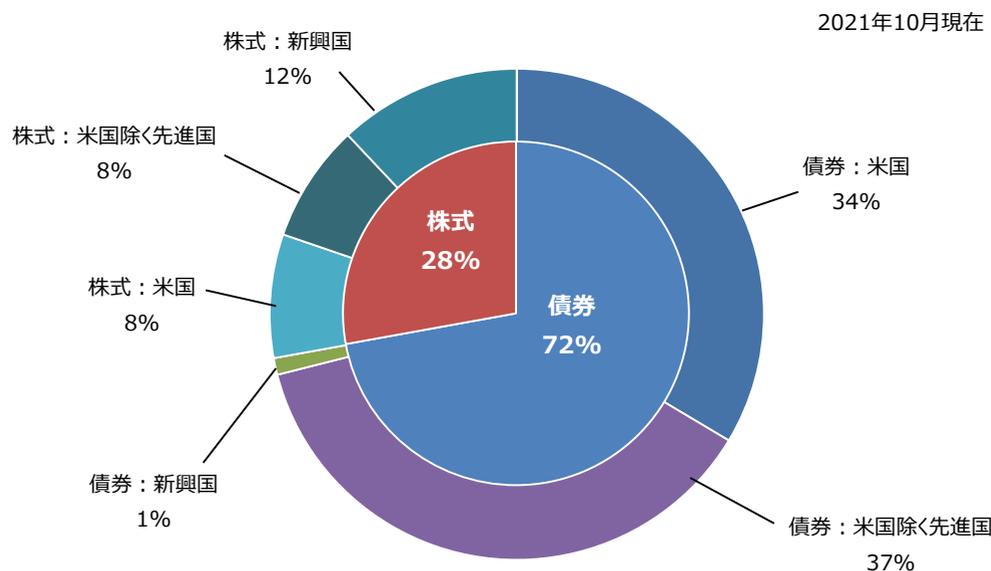
当戦略を活用頂く意義

-大きな下落を避け、安定的に資産を積み上げるコア戦略-

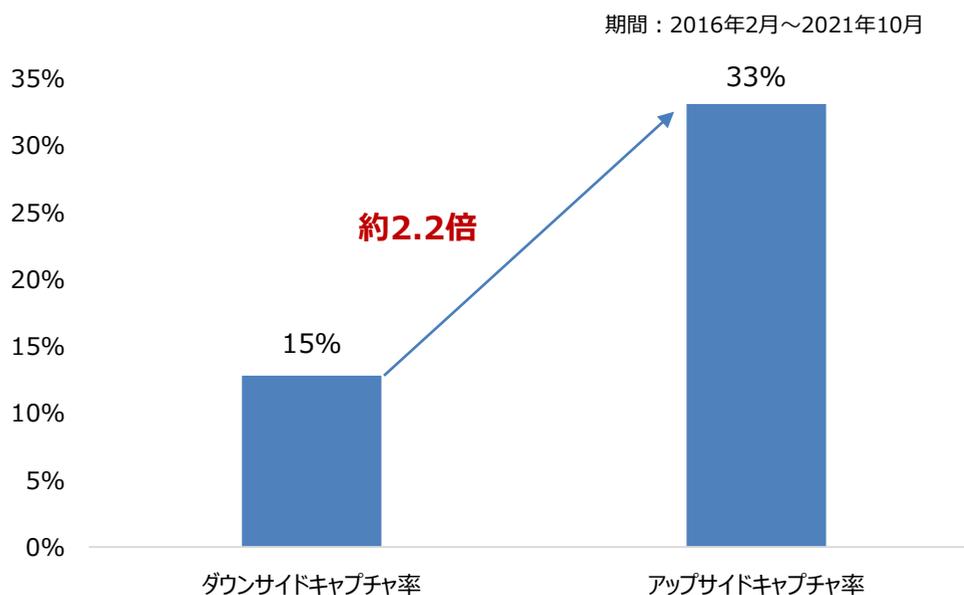
【中長期で負けない運用】により、中長期での着実な成長を目指す

- コロナ禍を契機とした新しい景気サイクルは中盤に入り、今後は緩やかな成長が想定されます。かかる環境では引き続き株式に妙味が存在するとみていますが、インフレが高止まりし、政策のかじ取りが困難な環境下、全般的に割高なリスク資産への投資には機動的な配分変更や、テーマ選定の重要性が高まっています。
- 当戦略(欧州籍)では、ダイナミックな資産配分の変更により、グローバル株式市場の下落に対してはより低い追随率(小さな影響)、上昇に対しては相対的に高い追随率を記録してきました。株式の下落による影響を抑制しつつ、着実な上昇を捉える戦略は、上記のような環境においては引き続き有効と考えます。

【当戦略の資産配分比率】



【当戦略(欧州籍)のグローバル株式に対する上昇/下落追随率】



※グローバル株式はMSCI ACWI

(出所) PIMCO、Bloombergのデータを基に岡三アセットマネジメント作成

市場環境等についての評価、分析等は、将来の運用成果を保証するものではありません。

巻末の「本資料に関してご留意いただきたい事項」を必ずお読みください。

当戦略の運用責任者からのメッセージ

- ▶ 当戦略は、2021年10月末で設定1周年を迎えました。純資産残高も200億円を超え、皆様からご支援をいただき運用者として非常に嬉しく思っています。
- ▶ 欧州籍の当戦略では、21年10月までの過去1年で4,800億円相当の資金流入がみられ、純資産総額が1兆円に近付いています。株式などリスク資産の下落への追従を抑えながら、5年半を超える運用期間において、年5～9%のリターン実績をご評価頂いています。
- ▶ 日本における当戦略も、設定来で+5.6%のリターン*となっておりますが、今年の3月以降はやや上値の重い状況です。2月下旬以降のそれまで力強く上昇していたグロース株の調整、今夏以降の中国を中心としたアジア株の調整などの影響を間接的に受けましたが、本レポートでご紹介する投資テーマは、中長期で大きなトレンドになると考える確信度の高いテーマです。今後も安定的な成長を目指した運用に努めてまいります。

* PIMCOダイナミック・マルチアセット戦略ファンド（資産成長型）のリターン

テーマ株式を活用して安定的な成長を目指す



ジェラルディン・サンドストロム氏

ロンドンを拠点とするマルチアセット運用チームのポートフォリオ・マネージャーで、当戦略の運用主担当。2015年にPIMCOに入社する以前は、ブレバン・ハワードやムーア・キャピタルなど複数のヘッジファンドで豊富な運用経験を有する。

当戦略のコンセプト

PIMCOの経済見通しを最大限に活用する「守り」と「攻め」の手法

- ▶ 当戦略は、2008年のリーマン・ショックの原因となった米国住宅バブルや2012年のギリシャ財政危機に端を発した欧州債務問題を予見したPIMCOの経済見通し、運用主担当者であるジェラルディン・サンドストロムをはじめとしたヘッジファンドでの経験豊富な運用ノウハウを活かし、「守り」と「攻め」を意識した運用を行います。

PIMCOの実績ある経済見通し



下値リスクを抑制しつつ、反発相場を捉える
「守り」のダイナミック・
アロケーション

ヘッジファンドの運用ノウハウ



持続的な成長トレンドを捉えるテーマの発掘
「攻め」の株式テーマ・
ロケーション

“中長期で負けない運用”を目指す

■ 当資料で使用したデータ及び指数>

当戦略：PIMCOが2020年10月に運用を開始したPIMCOダイナミック・マルチアセット戦略のパミュダ籍代表口座

当戦略（欧州籍）：PIMCOが2016年2月に運用を開始したPIMCOダイナミック・マルチアセット戦略の欧州籍代表口座

当ファンド：岡三アセットマネジメントが運用する「PIMCOダイナミック・マルチアセット戦略ファンド（資産成長型／年2回決算型）」愛称 世界のマイスター

市場環境等についての評価、分析等は、将来の運用成果を保証するものではありません。

巻末の「本資料に関してご留意いただきたい事項」を必ずお読みください。

■ お知らせ ■

岡三アセットマネジメントのホームページに世界のマイスターの特別コンテンツを開設しました。下記のQRコードからご覧いただけます。どうぞご利用ください。



投資リスク

基準価額の変動要因

■ 投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆様へ帰属します。

ファンドは、国内外の株式、債券、通貨、商品および不動産関連の証券等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。為替変動リスクを完全にヘッジすることはできないため、為替相場の変動により損失を被ることがあります。

■ ファンドの主な基準価額の変動要因としては、「株価変動リスク」、「債券価格変動リスク」、「商品価格変動リスク」、「不動産関連の証券の価格変動リスク」、「為替変動リスク」、「信用リスク」があります。その他の変動要因としては、「流動性リスク」、「カントリーリスク」があります。

※「基準価額の変動要因」は、上記のリスクに限定されるものではありません。

留意事項

■ ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。

■ 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。

■ 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部戻戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

■ 投資対象とする投資信託証券にかかる購入・換金申込みの受付の中止および取消、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込みの受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込みの受付を取消することがあります。

● 詳しくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」の「ファンドの目的・特色」、「投資リスク」をご参照ください。

お客様にご負担いただく費用

お客様が直接的に負担する費用

購入時	購入時手数料	購入金額(購入価額×購入口数)×上限2.2% (税抜2.0%)	◆詳しくは販売会社にご確認ください。
換金時	換金手数料	ありません。	
	信託財産留保額	ありません。	

お客様が信託財産で間接的に負担する費用

保有期間中	運用管理費用 (信託報酬)	純資産総額×年率1.848% (税抜1.68%) ※当ファンドが投資対象とする投資信託証券の運用報酬はかからないため、実質的な運用管理費用(信託報酬)も上記と同じとなります。
	その他費用・手数料	監査費用：純資産総額×年率0.0132% (税抜0.012%) 有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等を投資信託財産でご負担いただけます。また、投資対象とする投資信託証券に係る前記の費用等、海外における資産の保管等に要する費用を間接的にご負担いただけます。(監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。)

○ お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。

○ 詳しくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」の「手続・手数料等」をご参照ください。

設定・運用は

 岡三アセットマネジメント

商号等：岡三アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第370号

加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

委託会社お問合わせ先  フリーダイヤル 0120-048-214 (営業日の9:00~17:00)

 ホームページ <https://www.okasan-am.jp>

■ 本資料は、PIMCOダイナミック・マルチアセット戦略ファンド(資産成長型)/(年2回決算型)ファンドに関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■ 本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点でのピムコジャパンリミテッドの見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■ 本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 投資信託の取得の申込みには、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

販売会社

(資産成長型) (年2回決算型) 共通

2021年10月29日現在

商号	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
(金融商品取引業者)					
岡三証券株式会社	関東財務局長(金商)第53号	○	○		○
三縁証券株式会社	東海財務局長(金商)第22号	○			
株式会社証券ジャパン	関東財務局長(金商)第170号	○			
東洋証券株式会社	関東財務局長(金商)第121号	○			○
三晃証券株式会社	関東財務局長(金商)第72号	○			